

# 上級漢字クラスにおける漢字語彙学習の方法

加納千恵子

## 要 旨

筑波大学留学生センターの補講コース「漢字4」のクラスは、既習漢字1000字程度の漢字圏・非漢字圏の外国人上級学習者を対象に、さらなる漢字語彙力の拡張を目標として、週1コマ(75分)で1学期10週の授業を行っている。このクラスでは、分野別に漢字語彙力を拡張する試みをしており、学習者に各課の宿題として学習漢字を使った最もよく使われると思う語を選ばせ、短文を作らせるという課題を与えている。本稿では、その結果の分析から、上級学習者がどのような方法で漢字語彙を学習しているかというプロセスを探り、このレベルにおける効果的な語彙指導の方法として、漢字熟語の品詞性の指導、文法的用法の指導、連語の知識(文中での他の語との共起性)の指導、類義語・対義語などの関連語ネットワークの指導などの有効性の検証を試みる。

【キーワード】 上級学習者、漢字語彙力、品詞性、文法的用法、連語の知識、  
関連語ネットワーク

## Developing Kanji Vocabulary for Advanced Level Learners

Kano, Chieko

### Abstract

The Japanese "Kanji 4" class at the International Student Center is intended for foreign learners of advanced level with or without kanji background who know approximately 1000 kanji. This class consists of one lesson (75 minutes) per week for 10 weeks, and aims at further kanji vocabulary building. In this class, learners are given the assignment of making short sentences using the target kanji and the most frequently used compound words in which the kanji are used, in order to expand the learners' vocabulary in different fields.

The present paper investigates the process of learning kanji vocabulary by advanced level learners. It also examines an effective Kanji vocabulary development for this level, using knowledge such as the parts of speech of kanji compounds, grammatical usages, collocations with other words in sentences and making networks of related words such as synonyms, antonyms, etc.

## 1. はじめに

加納(2000)は、留学生センター日本語補講の中級レベルの技法別漢字クラス<sup>(1)</sup>における漢字語彙テストの結果などを分析し、中級レベルの外国人学習者の漢字語彙学習の問題点を指摘した。そして、中上級の漢字語彙力拡張のために有効と思われる漢字の用法に関する知識として、漢字熟語の品詞性、文法的共起性、意味的共起性、類義語・対義語などの関連語ネットワークを提案した。

本稿では、さらに上級レベルである「漢字4」のクラスの学習者を対象に、その漢字語彙学習のプロセスを探り、その結果から、効果的な語彙指導の方法を検討する。このクラスは、既習漢字1000字程度の漢字圏・非漢字圏の外国人学習者を対象としており、彼等の日本語学習の目的は、専門分野の文献の読解や研究活動に必要な漢字語彙を増強することであるが、その専門が多様であるため、そのいずれにも共通するような漢字語彙、すなわち「アカデミックな文献読解のための共通漢字語彙」に使われる漢字を抽出した教材<sup>(2)</sup>を使用し、ある程度分野別に漢字語彙を拡張する試みをしている。そして、学習者には、各課の宿題として学習漢字を使った最もよく使われると思う語を自分で選ばせ、自分にとって役に立ちそうな短文を作らせるといった課題を与えている。学習者が宿題でどのような語を選び学習してくるのか、また実際にどのような文を作り、その運用にはどのような問題が認められるのか、などを考察することによって、上級学習者にとって効果的な漢字語彙学習の方法について検証したい。

## 2. 「漢字4」クラスの概要

留学生センターの「漢字4」のクラスは、週1コマ(75分)の授業で1学期10週のコースとなっており、既習漢字750～1000字程度の漢字圏・非漢字圏の外国人学習者を対象としている。これらの学習者は、プレースメントテストあるいは、前学期補講漢字クラスの期末テストの結果から、おおむね日本能力試験2級(漢字1000字、語彙6000語レベル)程度の漢字語彙知識を有していると判断される。そして、このクラスの目標は、日本語能力試験1級(漢字2000字、語彙1万語レベル)程度の漢字語彙力の養成であるが、厳密に言えば、学習者1人1人の専門分野が異なるため、彼等にとって重要な漢字語彙というのは少しずつ異なっている可能性が高い。また、当然のことながら、週1回、計10週の授業だけでその目標を達成できる学習者というのは非常に限られているため、通常は2～3学期続けて同じクラスを受講して漢字学習を続けるというリピーターが多いのが特徴である。

テキストとしては『漢字1000PLUS Intermediate Kanji Book』Vol.2(2001、凡人社)を使用するが、先述の理由により同じクラスをリピートする学習者がいるため、各学期ごとに別々の4課をランダムに選択して学習を指導している。ちなみに、2001年度の「漢字4」クラスでは、1学期に2課、4課、6課、8課を使用し、2学期に1課、3課、7課、11課、3学期は5課、12課、14課、15課を使用する予定である。本稿で分析の対象とするのは、2001年度1学期の「漢

字4」クラスの受講生による各課の宿題のうちの文作り問題のデータである。

2001年度1学期の「漢字4」クラスの登録者は26名いたが、途中で受講を取り消したり、出席不良で受講放棄した学習者もあり、最終的な受講生の構成は以下の通りであった<sup>(3)</sup>。

表 1. 2001年度 1 学期「漢字 4」クラス受講生23名

非漢字圏	15名	韓 国	6名	漢字圏	2名
アメリカ	3名	韓 国	6名	中 国	2名
フランス	1名				
フィンランド	1名				
スロベニア	1名				
オーストラリア	1名				
インドネシア	2名				
マレーシア	2名				
タ イ	1名				
ベトナム	1名				
モンゴル	1名				
ブラジル	1名				

以下が、2001年度1学期の「漢字4」クラス10週間のカリキュラムである。

月 日	曜日	時限	研修室	担当	内 容
4月26日	木曜	4限	G	加納	コース説明・L2「力だめし」要点
.....4/26 Registration Deadline					
5月3日	木曜	4限	休日（憲法記念日）		
5月10日	木曜	4限	G	加納	L2練習 [★L2宿題提出]
5月17日	木曜	4限	G	加納	L2クイズ・L4「力だめし」要点
5月24日	木曜	4限	G	加納	L4練習 [★L4宿題提出]
5月31日	木曜	4限	G	加納	L4クイズ・L6「力だめし」要点
6月7日	木曜	4限	G	加納	L6練習 [★L6宿題提出]
6月14日	木曜	4限	G	加納	L6クイズ・L8「力だめし」要点
6月21日	木曜	4限	G	加納	L8練習 [★L8宿題提出]
6月28日	木曜	4限	G	加納	最終テスト（L2～8）と日本語能力試験1級（文字）

このクラスの評価は、各課のクイズ（小テスト）の結果平均40%、宿題の結果平均20%、最終テストの結果40%でつけている。毎学期、最終テストといっしょに日本語能力試験1級の文

字語彙問題をさせているが、この結果はあくまで受講生が自分の目標達成度を知るための参考用であって、補講の成績には加味していない。クラスで学習した課の漢字語彙に関する到達度テストではある程度の成績を取っても、全体的にみるとまだ漢字語彙力が弱いという学習者(特に非漢字圏)の場合、自分の判断で同じレベルのクラスを続けて受講することが多い。

2001年度1学期に使用したテキストの2課、4課、6課、8課の学習内容は、以下のようのものであった。教育関係の語彙は比較的どの分野にも共通して使われているため、2課から始めて、4課で電気通信(科学・技術関係)の語彙、6課で地震(地球科学関係)の語彙、8課で経済・金融関係の語彙を扱った<sup>(4)</sup>。

## 第2課 学生による授業評価

要点	1. 教育関係の漢字・漢字語	<u>授業</u>	<u>紛争</u>	<u>学期末</u>	<u>採点</u>	<u>改善</u>
	2. 漢字熟語の品詞性と共起性	<u>選択</u>	<u>判断</u>	<u>提供</u>	<u>権利</u>	<u>保証</u>
	3. 対になる意味の言葉	<u>保護</u>	<u>実施</u>	<u>指導</u>	<u>材料</u>	<u>成績</u>
		<u>意欲</u>	<u>態度</u>	<u>甘い</u>	<u>恐れ</u>	<u>学級</u>
				20語	21字	

## 第4課 低料金・高速ネット時代

要点	1. コンピュータ・電気通信・インターネット関係の漢字・漢字語	<u>光</u>	<u>家庭</u>	<u>銅</u>	<u>捨てる</u>	<u>統合</u>
		<u>電話網</u>	<u>対称</u>	<u>選択肢</u>	<u>装置</u>	<u>配線盤</u>
	2. 長い漢字熟語の語構成	<u>公衆</u>	<u>相互</u>	<u>先駆け</u>	<u>需要</u>	<u>双方向</u>
		<u>端末</u>	<u>普及</u>	<u>衛星</u>	<u>検索</u>	<u>仮想</u>
				20語	21字	

## 第6課 地震の心得十か条

要点	1. 災害に関する漢字の表現	<u>地震</u>	<u>十か条</u>	<u>指摘</u>	<u>災害</u>	<u>命</u>
	2. 箇条書きの表現	<u>転倒</u>	<u>戸</u>	<u>近寄る</u>	<u>避難</u>	<u>徒歩</u>
	3. 「倒れる」「壊れる」類の漢語動詞	<u>居住地</u>	<u>山崩れ</u>	<u>津波</u>	<u>倒壊</u>	<u>逃げる</u>
		<u>震源</u>	<u>余震</u>	<u>大規模</u>	<u>微震</u>	<u>耐震</u>
				20語	21字	

## 第8課 景気とは何か

要点	1. 反対概念を表す経済関連語	<u>景気</u>	<u>利益</u>	<u>労働</u>	<u>賃金</u>	<u>控える</u>
	2. 経済の変化・推移に関する漢字語	<u>抑制</u>	<u>金融</u>	<u>鈍る</u>	<u>停滞</u>	<u>債権</u>
	3. 名詞と動詞の共起関係	<u>処理</u>	<u>空洞化</u>	<u>低迷</u>	<u>打破</u>	<u>貿易</u>
		<u>～兆円</u>	<u>日本版</u>	<u>為替</u>	<u>5億円</u>	<u>財政</u>
				20語	21字	

このテキストの各課は、「力だめし」「要点」「練習」「課題」からなっている。学習者は、まず、「力だめし」のページにある800字～1000字程度の長さの読み物を読んでみて、そこに使われている漢字語彙がどの程度わかるか、正確に読めるか、用法まで知っているかなどを確認する。そして、新しい漢字語彙を覚えるのに役立つ情報や漢字を整理して記憶するのに有効な知識などがまとめてある「要点」のページを学習し、「練習」に入る。「練習」には、いわゆるオーソドックスな読み練習や書き練習の他に、対になっている漢字語を問う問題、その漢字語の表すニュアンス（いいイメージで使われる語か、悪いイメージで使われる語か、改まった文体で使われる語か、くだけた表現といっしょに使われる語か、話し言葉か、書き言葉か、など）を考える問題、漢字語の語構成を考える問題、文中での文法的用法（品詞）や他の語との意味的共起性を問う問題、形声文字の音符の知識を利用する問題、漢字の構成要素を組み立てて漢字を作る問題など、様々な練習が用意されており、学習者はクラスで練習し、教師からのフィードバックを受ける。そして、各自で「課題」にある問題を宿題として行い、提出することになっている。「課題」には、その分野の語彙を使った新しい読み物（生の新聞記事や本などからの抜粋など）を読んで質問に答える形式の応用読解問題と、その課で学習した漢字語彙の読み書き問題、そして学習漢字を使った文作り問題がある。本稿で分析の対象とするのは、最後の文作り問題である。

### 3. 上級学習者による漢字語の選択

各課の「課題」のところにある学習漢字を使った文作り問題には、次のような指示が出されている。

**【漢字作文の課題】** 次の漢字を辞書で調べて、最もよく使われると思う熟語を選び、例のように文を作りなさい。

例) 他 → <sup>たにん</sup>他人：他人に失礼な態度をとってはいけません。

- |      |      |         |
|------|------|---------|
| 1. 権 | 2. 判 | 3. 護    |
| 4. 証 | 5. 甘 | 6. 以下省略 |

まず2課の漢字について、学習者がどのような熟語を選択しているかを見てみると、たとえば「権」という漢字を使った、最もよく使われると思う熟語としては、「権利」を選んだ者が19名、「権力」を選んだ者が2名という結果になっている。その他にも、「権限」「権威」「人権」「実権」「参政権」などを選択した学習者が各1名いるが、全体的にみると「権」は「権利」という1語に集中的に使われるタイプの漢字といえよう。このような漢字を「タイプA」と名付けた。これに対して「提」という漢字は、「提案」を選んだ者が8名、「提供」を選んだ者が7名、「提

出」を選んだ者が6名、「提言」「提携」を選んだ者が各2名、その他「提示」「前提」が各1名となっており、選択された語がかなり分散していることがわかる。このようなタイプの漢字を「タイプB」とし、最も多くの学習者によって選択された熟語でも学習者全体の過半数を超えていないこと、同程度の数の学習者が選択している他の語があることをその条件とした。どちらともいえないものについては、「タイプAB」とした。さらに、あまり数は多くないが、学習者が字音語でなく字訓語を目立って選択している漢字があったので、それを「タイプC」とした。

2課の学習漢字のうち、「課題」に文作り問題として出題された20字についての結果は、表2のようになった。「テキスト」欄にある漢字熟語は、「力だめし」の読み物中に出現した言葉である。「学習者による語彙選択」欄には、宿題を提出した学習者（2課は26名）が選択した語彙をその数の多い順（1位と2位）に取り出し、少数しか選択しなかった語は「その他」の欄に挙げてある<sup>(5)</sup>。

上記20字の中で、「タイプA」は9字（権判授紛態導材績）、「タイプB」が5字（提欲末施級）、中間の「AB」が5字（護証採善恐）で、「タイプC」は1字（甘）のみであった。教育関係の語彙に使われる漢字には、1語に集中的に使われるタイプが多いと言えそうである。また、学習者によって1位に選択された熟語の75%がテキストに出現した熟語と一致しており、その他の熟語が1位に選択された漢字は、「タイプB」か「タイプAB」であった。

次に、4課の「課題」に文作り問題として出題された20字について、学習者26名の宿題の結果をまとめると、表3のようになった。

上記20字中、「タイプA」は6字（庭互需及索衛）、「タイプB」が10字（光称装駆双星仮盤肢網）、中間の「AB」が4字（統衆端銅）で、「タイプC」はなかった。4課の科学・技術分野で使われる漢字は、かなり造語に広がりがあり、1語に集中的に使われる傾向はそれほど強くないようである。また、テキストに出現した熟語が最も多く選択されている漢字は全体の45%で、それ以外の熟語が選択されるほうが多いことがわかった。この学期の受講生には、科学・技術分野の専門の学生が少なかったため、当該分野以外で使われる日常語彙を選んだとも考えられる。

さらに、6課の「課題」に文作り問題として出題された16字について、学習者24名の宿題の結果をまとめると、表4のようになった。

上記16字中、「タイプA」が6字（摘震条避津規）、「タイプB」が6字（逃倒崩居壊戸）、「AB」が3字（命災徒）、「C」も1字（寄）あった。6課の漢字も造語に広がりがあるものが多い。また、テキストに出現した熟語が最も多く選択されているのは全体の38%にすぎず、それ以外の熟語が選択されるほうが多かった。

最後に、8課の「課題」に文作り問題として出題された11字について、学習者23名の宿題の結果をまとめると、表5のようになった。

8課の学習漢字11字中、「タイプA」が4字（洞益勞融）、「タイプB」も4字（鈍債景賃）、

表 2. 2 課の文作り問題における学習者による語彙選択

漢字	タイプ	出現テキスト	学 習 者 に よ る 語 彙 選 択				
			1 位	数	2 位	数	そ の 他
権	A	権利	権利	19	権力	2	権限 権威 人権 実権 参政権
判	A	判断	判断	19	判別 判決 評判	2 2 2	裁判 批判 判子
護	AB	保護	保護	12	弁護士 看護婦 護衛	5 3 3	警護 愛護 弁護 看護 護身
証	AB	保証	証明	13	証拠 保証 証人	5 2 2	外国人登録証 学生証 保証人 証言 内証
甘	C	甘い	甘い	8	甘言 甘口	5 3	甘えん坊 2 甘味料 2 甘酒 甘党 甘える 甘やかす 甘心
授	A	授業	授業	17	授与	5	授受 3 授ける 授産所
択	A	選択	選択	24	採択	2	択一的
提	B	提供	提案	8	提供 提出	7 6	提携 2 提言 2 提示 前提
採	AB	採点	採用	13	採点 採集	7 4	採算 2 採血 採択
欲	B	意欲	食欲	7	意欲 欲望	6 5	欲張り 3 欲求 2 無欲 2 強欲 欲張る 欲しい
紛	A	紛争	紛争	17	紛失	5	内紛 紛々 紛れる 紛らす
態	A	態度	態度	20	状態	5	実態 2
善	AB	改善	改善	11	善意 善悪	6 2	善戦 善人 善良 善玉 性善説 親善 慈善 最善 偽善 善し悪し
導	A	指導	指導	18	誘導 導入	4 4	盲導犬 導く
末	B	期末	期末	5	結末 週末	5 4	月末 3 末期 3 末席 末世 年末 始末 末っ子
施	B	実施	実施	10	施行 施設	8 7	施政 施策 施す
材	A	材料	材料	23	教材	3	機材 取材 材質
績	A	成績	成績	20	功績	3	業績 2 実績 面積
級	B	学級	学級	5	高級	4	初級 3 中級 3 階級 3 一級 2 進級 2 同級 2 上級 級友 等級
恐	AB	恐れ	恐怖	12	恐れ 恐縮	4 3	恐らく 3 恐れる 2 恐ろしい 恐慌 恐竜 恐喝

表3. 4課の文作り問題における学習者による語彙選択

漢字	タイプ	テキスト出現	学習者による語彙選択					
			1位	数	2位	数	その他	
光	B	光	観光	8	日光 光景	5 3	光2 光線2 光荣2 光熱費 光学 発光	
庭	A	家庭	家庭	15	庭園	5	校庭2 庭 庭師 裏庭 庭木	
統	AB	統合	伝統	10	統計 統合	4 3	統一3 大統領3 総統 系統的	
称	B	対称	対称	6	称赞 自称	5 3	名称2 愛称2 略称2 通称 人称 称号	
装	B	装置	服装	7	装置 装備	5 2	変装2 改装2 装飾2 包装2 衣装2 内装 装束	
衆	AB	公衆	公衆	12	大衆	7	民衆2 観衆2 聴衆 衆議院	
互	A	相互	相互	16	互い	6	互角2 交互	
駆	B	先駆け	駆使	7	駆け引き 駆動	6 4	先駆者3 先駆け3 駆除2 駆虫剤 駆り立てる	
需	A	需要	需要	14	必需品	8	需給3	
双	B	双方向	双方	10	双子	9	双眼鏡2 双生児2 無双 双方向	
端	AB	端末	極端	13	先端 端	3 3	道端3 端末2 端的 端座 末端	
及	A	普及	普及	22	及ぼす	3	波及	
星	B	衛星	衛星	8	星座	8	星3 流れ星3 星占い2 北極星	
仮	B	仮想	仮説	8	仮面 仮定	5 4	仮設2 仮病2 仮想 仮装 仮名 仮 仮免許	
索	A	検索	検索	15	索引	6	思索2 搜索2	
衛	A	衛星	衛生	14	衛星	3	自衛3 守衛3 護衛	
盤	B	配電盤	基盤	9	円盤	6	地盤4 羅針盤4 終盤2	
肢	B	選択肢	選択肢	9	肢体	7	下肢4 四肢3 上肢	
網	B	通信網	通信網	6	網戸 網棚	6 3	網3 網膜2 網羅2 金網 網虫 情報網	
銅	AB	銅	銅像	12	銅貨 銅器	5 3	銅2 青銅2 銅線 銅牌 銅板	



表4. 6課の文作り問題における学習者による語彙選択

漢字	タイプ	テキスト出現	学習者による語彙選択				
			1位	数	2位	数	その他
摘	A	指摘	指摘	14	摘出	4	摘発4 摘む
逃	B	逃げる	逃亡	7	逃げる 逃避	5 5	逃走3 夜逃げ2 逃げ道 見逃す
寄	C	近寄る	寄付	5	年寄り 近寄る	4 3	寄贈3 寄る3 片寄る2 最寄り2 寄切り 寄宿舍
倒	B	転倒	倒産	9	面倒	4	転倒3 圧倒3 倒壊2 倒れる2
崩	B	山崩れ	崩壊	7	山崩れ	6	雪崩4 崩落2 崩御 崩れる 崩す
震	A	地震	地震	14	震度 震災	4 2	震源2 震度2 震動2 震える
居	B	居住	居眠り	6	居住 住居	3 3	入居3 同居2 別居2 芝居2 転居 隠居 居酒屋
壊	B	倒壊	破壊	7	全壊 倒壊	6 5	崩壊2 壊れる 壊す 壊滅 壊血病
命	AB	命	命令	8	運命 寿命	4 2	生命2 命 人命 命日 命名 革命 亡命 用命
災	AB	災害	災害	10	火災	5	人災5 災難2 震災 戦災
条	A	箇条	条件	18	条約	4	箇条 9条
戸	B	戸	戸外	5	網戸 戸	3 3	戸惑う3 雨戸3 戸締まり2 戸籍2 水戸2 門戸
徒	AB	徒歩	徒歩	10	生徒	5	教徒5 暴徒2 徒手2
避	A	避難	避難	14	回避	3	避暑3 避ける2 避雷針 逃避
津	A	津波	津波	14	津々浦々	5	興味津々4 草津 会津
規	A	規模	規則	13	規模	3	規制3 規定2 法規 規約

表5. 8課の文作り問題における学習者による語彙選択

漢字	タイプ	テキスト出現	学習者による語彙選択				
			1位	数	2位	数	その他
処	AB	処理	処理	12	処分	5	対処2 処女2 処方 処罰
易	AB	貿易	貿易	11	易しい	5	容易3 安易3 交易 簡易 易学
洞	A	空洞化	洞察	13	洞窟	5	洞穴2 空洞2 鍾乳洞
鈍	B	鈍い	鈍感	12	鈍い	8	鈍器2 鈍化
債	B	債権	債権	8	負債	5	債務4 国債3 債券2
景	B	景気	景色	9	景気	7	背景2 風景 景観 全景 絶景
益	A	利益	利益	14	収益	5	有益2 無益2
労	A	労働	労働	13	過労	4	苦労4 徒労 労力
賃	B	賃金	賃金	10	家賃	10	賃上げ 宿賃 賃貸
抑	AB	抑制	抑制	10	抑圧	4	抑揚4 抑える4 抑止
融	A	金融	金融	10	融通	4	融資4 融合2 融和2 融点

「AB」が3字（処易抑）で、「C」はなかった。また、テキストに出現した熟語が多く選択されているのは全体の64%であった。

#### 4. 漢字語彙習得上の問題点と今後の課題

以上見てきたように、ある分野で使用頻度の高い漢字語彙に使われる漢字の中には、その分野の特定の語に集中的に使われるもの（タイプA）と、様々な分野の語に分散的に使われるもの（タイプB）があり、その中間的なところに位置するもの（タイプAB）もあることがわかった。中上級の外国人学習者にとって、漢字の学習は語彙の学習にはかならず、学習者の専門分野によって有用な漢字語彙も異なる可能性が高いことから、学習者の自律的な漢字語彙学習を支援するための情報として、このような熟語選択の実態調査を続けていく必要があるのではないかと考えている。

現在の漢字辞書には、ただ当該漢字を使った熟語が等価のものとして五十音順に並べてあるにすぎず、その中のどの熟語が、どの分野においてよく使われるものなのか、どのような学習者にとって有用なものなのか、知るすべもないのが実情である。学習者の文作りという面から見た必要情報のほかに、読解という面から見た必要情報として、日本の新聞・雑誌・文献などにおける分野別およびジャンル別の語彙使用頻度データなども重要であろう。数はそれほど多くないが、漢語（字音語）より和語（字訓語）の方がよく使われる漢字もあり、このレベルの学習者にとって意外な弱点となっていることもあるので、注意が必要である。

2001年度1学期「漢字4」のクラスの受講生が宿題で作った短文を見てみると、加納（2000）で指摘した、中級レベルの外国人学習者の漢字語彙学習上の問題点と同様の問題がここにも見られることがわかる。すなわち、(1) 漢字熟語の品詞性の問題、(2) 文中における文法的用法の問題、(3) 連語の知識（文中での他の語との意味的共起性）の問題、(4) 類義語・対義語などの関連語ネットワーク作りの問題などである。

漢字熟語の品詞性の問題としては、2字熟語が「する」をつけて漢語動詞として使えるかどうか、「な」をつけて名詞修飾に使えるかどうか、「的」をつけて名詞修飾ができるかどうか、そのままで名詞修飾に使われたり、副詞として使われたりするかどうか、などが主な問題である。

文中における文法的用法の問題としては、「する」をつけて漢語動詞となる熟語の場合、「～が」と共起して自動詞として使われるのか、「～を」と共起して他動詞として使われるのかが誤りの多い点である。これらの情報を混同している学習者は漢字圏・非漢字圏ともに多く見られる。また、「～を～に提供する」、「～と提携する」のように、共起する助詞が違うものがあるので、要注意である。特に、「する」がついた漢語動詞が受身や使役の形で使われると、主語、目的語の格関係が変化するため、助詞に注意する必要がある。

連語の知識（文中での他の語との意味的共起性）の問題としては、その熟語がどのような語と共起するかがわかっているかどうかという問題がある。漢語名詞の中には、「～がある／ない」

「～を持つ」「～になる」「～が大きい／小さい」など、よく使われる述語が特定されるものと、そうではないものがある。連語の組み合わせが特定されるものに関しては、その情報が学習に役立つことは言うまでもない。

初級で学習するような日常的な語彙に関しては、辞書で意味を知れば、使えるようになるのにそれほど困難はないが、中級以降、専門分野で使われる語彙については、意識的な関連語ネットワークの作成が重要になってくる<sup>(6)</sup>。具体的には、対語や反義語などの知識を使って語彙ネットワークを広げること、連語知識によって類義語の使い分けを覚えることなどが考えられる。例えば、法律関係の語彙では、「法律」や「規則」は「実施される」とは言わず「施行される」と言い、「改善される」「改良される」「訂正される」「改訂される」などではなく「改正される」が使われる、といった知識が役に立つのである。

今後の課題としては、このような漢字語彙の用法に関する客観的な使用実態データおよび学習者の自律的学習を支援するための情報・知識をさらに収集し、漢字語彙学習のための教育環境を整備することに努めていきたい。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 「非漢字圏外国人学習者の漢字語彙力測定のための標準テストの開発」(課題番号 1 2 4 8 0 0 5 9) からの助成を受けている。

## 注

(1) 筑波大学留学生センターでは、外国人留学生を対象に以下のような補講の技能別漢字クラスを開講しており、加納 (2000) では、「漢字 2」「漢字 3」のクラスでのテスト結果を分析対象とした。

漢字 0 : 100 字程度の漢字を知っている非漢字圏の学生を対象に、300 字程度の基礎的な漢字力をつける。教材は『基本漢字 500 Basic Kanji Book』Vol.1 と練習プリントを使っている。

漢字 1 : 300 字程度の漢字を知っている学生を対象に、基礎漢字 500 字の総合的な練習を行って基礎漢字力をつける。教材は『基本漢字 500 Basic Kanji Book』Vol.2 と練習プリントを使っている。

漢字 2 : 500 字程度の漢字を知っている学生を対象に、漢字の成り立ちや漢語の意味・用法等について総合的な練習を行い、中級の漢字力をつける。教材は『漢字 1000PLUS Intermediate Kanji Book』Vol.1 の 1 課～ 5 課と練習プリントを使っている。

漢字 3 : 800 字程度の漢字を知っている学生を対象に、特に漢語の用法や同音の漢字の知識等、さらに高度な漢字力をつける。教材は『漢字 1000PLUS Intermediate Kanji Book』Vol.1 の 6 課～ 10 課と練習プリントを使っている。

漢字 4 : 1000 字程度の漢字を知っている学生を対象に、分野別の漢字語彙の拡充を図ると同

時に弱点を克服するための練習を行う。教材は『漢字1000PLUS Intermediate Kanji Book』Vol.2の中から学期に応じて4課分を指定し、使用する。

- (2)『漢字1000PLUS Intermediate Kanji Book』Vol.2 (2001、凡人社)では、中級以降、新聞記事や論説文などを読むために必要となってくる、書き言葉特有の漢字語彙に使われる漢字のうち、異なる専門分野にもある程度共通して使われるものを「読解のための共通漢字」と呼び、学習漢字としている。以下のように、ある程度専門分野別に、本課16課とコラム9つにまとめて学習できるようにデザインされているのが特徴である。ただしこの本で扱っている読み物は、いわゆる本当の専門文献ではなく、その前段階すなわち新聞記事や教養書等である。

心理・教育関係の語彙＝1課、2課

科学・技術関係の語彙＝3課、4課、5課

地球科学関係の語彙＝6課、7課

経済・金融関係の語彙＝8課、9課

歴史関係の語彙＝10課

健康・医学関係の語彙＝11課

栄養・化学・物理・数学関係の語彙＝12課、13課

環境科学関係の語彙＝14課

政治・国際関係の語彙＝15課、16課

- (3) 補講の「漢字4」クラスの受講生は、いつもこのように非漢字圏に偏っているわけではなく、ここ1～2年は非漢字圏の学生と韓国の学生が半々ぐらいで、中国・台湾などの学生がそれより若干少ないといった傾向を示している。2001年度1学期は、欧米からの短期留学生在がこのレベルに多かったため、このような割合になったと思われる。「非漢字圏」「漢字圏」という分け方も、近年では絶対的なものではなくなっている。アメリカの学生でも中国系や日系の者がおり、中南米の日系留学生とはまた異なる様相を呈している。また、最近の韓国の学生は、非常に漢子の力が弱くなっており、非漢与圏に近づいているという見方もあるが、韓国語の語彙の中には漢語起源のものが多いという点では、「漢語圏」という見方も成り立つ。同様に考えると、ベトナム語やモンゴル語における漢語起源の語彙についても再考する必要がある。
- (4) この他に、コラム等で紹介されている漢字も学習したが、クラスで学習にかけた時間が短く、また断片的な扱いだったので、本稿の分析からは外して考える。
- (5) ただし、1人の学習者が複数の語彙を選択して作文している場合もあるため、各漢字の選択語彙数の合計が26を超えている漢字もある。また、ある漢字については無解答の学習者もあり、合計数が26に達していないところもある。「その他」の欄の語の後ろの数字は選択した学習者数であり、数字がないのは1名という意味である。

- (6) 谷口すみ子・他（1994）は、初級と中級の学習者を比べると、初級ではエピソードによって語彙が結ばれていることが多いのに対して、中級では概念の体系的な記述が増えていると報告している。

#### 参考文献

加納千恵子（2000）「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』15号：35-46

谷口すみ子・他（1994）「日本語学習者の語彙習得－語彙のネットワークの形成過程－」『日本語教育』84：78-91

森田良行・村木新次郎・相澤正夫編（1989）『ケーススタディ日本語の語彙』桜楓社